

特集 今日から始めよう わたしとみんなの防災



▲令和7年山形県・酒田市合同総合防災訓練



▲酒田地区広域行政組合消防本部 消防救助技術訓練



▲令和8年度最上川下流・赤川総合水防演習

【防災に関すること】危機管理課危機管理係 ☎26-5701 【復旧・復興に関すること】総務課総務係 ☎26-5700

災害は突然来る

いつかではなく

今備えよう

令和6年7月の大雨災害から間もなく2年。復興への道のりはまだ道半ばですが、インフラ復旧工事の進捗率は50%を超えるなど、着実に歩みを進めています。

6月～10月は、梅雨前線や台風による豪雨リスクが高まる「出水期」です。災害はいつ、どこで私たちの日常を脅かすかわかりません。リスクを客観的に把握して「災害を正しく恐れる」ことが防災の第一歩です。

いざという時、行政による支援（公助）にはどうしても限界があります。だからこそ大切にしたのは「自分の命は自分で守る」という自助の精神です。一人一人が正しい知識を持ち、備えることは、自分はもちろん家族や大切な人の命を守ることに直結します。

大雨災害の教訓を風化させず、日頃の備えを今一度見直してみませんか。今できる備えを今日から始めましょう。

皆様のご意見をお寄せください
【公開期間】7月20日(祝)まで



いつも持ち歩くものに防災の意識をプラスしましょう



0次の備え

いつも携帯、防災ポーチ

さっと持って避難できるよう、1人1袋を目安にまとめ、家庭や職場に備えましょう（目安は男性15kg、女性10kgまで）



1次の備え

備え万全、非常持ち出し袋

ライフラインが途絶えても、数日間は暮らせる物品を家庭に備蓄しましょう



2次の備え

万一の備え、安心ストック

備える

3段階で災害に備える

災害が起きるのは、家にいる時だけとは限りません。通勤・通学中やお出掛け中等、外出先で被災する可能性も十分にあります。また電気、ガス、上下水道などのライフラインが突然使えなくなること考えられます。被災状況や場面に応じて、3段階に分けて備えをまとめました。

知る

災害時に迅速かつ安全に避難するためには、正しい情報の取得が重要です。市からの避難情報などは、防災行政無線、防災ラジオ、緊急速報メール（エリアメール）、市ホームページ、市公式SNSなどを通じて発信します。防災行政無線が聞き取りにくかった場合は、放送後24時間以内であれば、市防災行政無線テレフォンサービスで内容を確認できます。

また市からの情報だけでなく、テレビやラジオ、気象庁ホームページなども積極的に活用することが重要です。日頃から複数の情報収集手段を確認しておき、災害時には自動的に正しい情報を集め、迅速で安全な避難行動につなげましょう。

災害時は以下の手段で市からの情報を得ることができます

市防災行政無線テレフォンサービス

☎24-6551

市ホームページ



トップページに「重要なお知らせ」として表示されます。

市公式SNS



▲LINE



▲X



▲Facebook

（さかたコンボの登録が必要）

二次元コードから友だち追加を行い、LINEメニューの「さかたコンボ」のボタンから登録します。

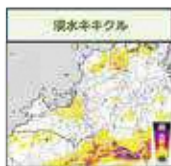
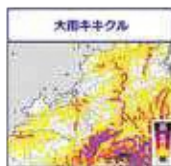
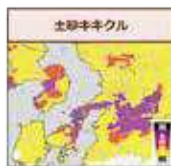
多様な手段で
情報収集を！

「キキクル」を活用しよう

キキクルは、大雨などによる災害の危険度を色分けされた地図で確認できるツールです。



▲キキクル



▲気象庁ホームページ

気象庁では、大雨などの災害リスクが高まるときに、警報などの防災気象情報を発信しています。気象庁ホームページでは、避難の判断に役立つ情報を確認することができます。

避難するタイミングは「赤：レベル3」と「紫：レベル4」

「レベル3」は高齢者など避難に時間がかかる人が避難するタイミングです。
「レベル4」は全員が避難するタイミングです。

危険度の高まりを
プッシュ型で
通知するサービス
もあります。



▲キキクルの
通知サービス

時間推移のイメージ

数日～
1日前

半日～
数時間前

数時間～
3時間前

2時間～
0時間前

災害
発生

レベル1
早期注意情報

・災害への心構えを一段高める

レベル2
注意情報

・ハザードマップなどで災害リスクを再確認する
・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する

レベル3
警戒情報

・避難に時間がかかる高齢者などは危険な場所から避難する
・高齢者など以外の人も必要に応じて避難の準備や自主避難

レベル4
危険警戒情報

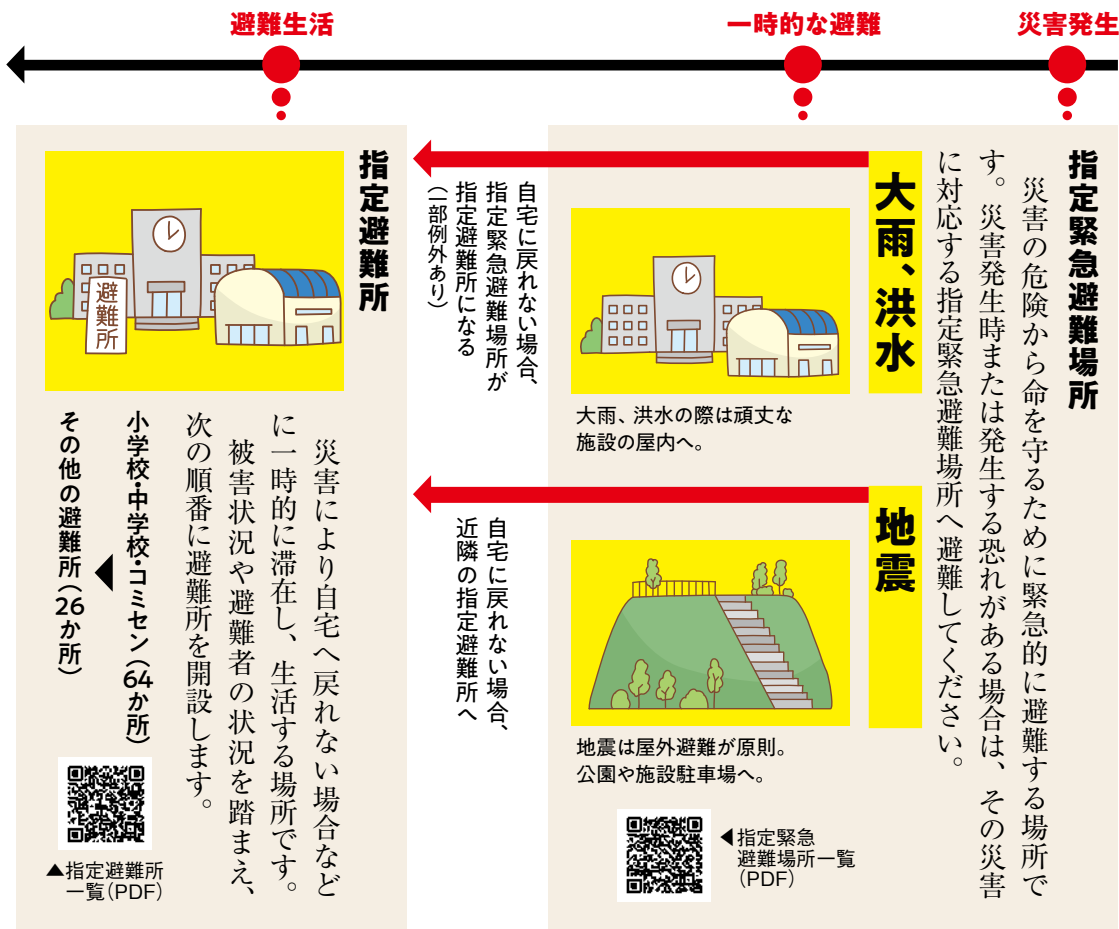
・危険な場所から全員避難する
・台風などにより暴風が予想される場合は、吹き始める前に避難を完了

レベル5
特別警戒情報

・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況
・今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動する

▲気象庁のホームページをもとに作成

防災気象情報のチェック方法



避難する

災害発生時の避難の流れ

ペットも家族。もしもの時の「同行避難」

本市では、ペットと一緒に避難（同行避難）できる避難所があります。「ペットがいるから」とあきらめず、早めの避難を心掛けましょう。

【受け入れ可能なペット】

犬・猫などの小型哺乳類、鳥類、爬虫類

◆大型動物、魚類、昆虫、特定動物などは対象外です。

【同行できる避難所】

市内小中学校、南遊佐・大沢・日向・南部・内郷の各コミセン

- ◆上記以外の避難所はペット同行不可。
- ◆災害により一部開設されない場合があります。

【避難のルールと準備】

- **必ず飼育ケージ(屋内)かリード(屋外)で**避難所での放し飼いは禁止です。
- **ペット用品は「最低1週間分」必要です**
フード・飲料水・療法食・トイレ用品・医薬品・清掃用ゴミ袋などは、全て飼い主の責任で準備する必要があります。
- **飼育は飼い主の責任で**
餌やり、掃除、散歩などの世話は全て飼い主が行います。避難所ではペットと人は別のスペースで過ごします。

日頃からの「もしも」の備え

- 《しつけとケージ慣れ》キャリーやケージに入れても落ち着けるよう練習をしましょう。
- 《身元表示》首輪や名札を付けましょう。マイクロチップを入れておくとも安心です。
- 《健康管理》定期的に各種予防接種を行いましょう。
- 《多頭飼育の時は》自分一人で避難できない場合は、協力者を事前に確保しておきましょう。

大切なペットの命を守れるのは、飼い主であるあなただけです。

内水氾濫では「無理に動かない」 ほうが安全なケースも

内水氾濫とは

川の氾濫などではなく、大雨により側溝などがあふれて道路などが冠水する現象

動かないほうがいいケース

冠水した道路を歩くと水面下の側溝やマンホールに落下する危険があるため、次のような場合は無理に避難をしない方が安全です。

- ① 浸水している場所を通らないと、安全な場所まで行けない場合。無理に移動すると、水の流れに巻き込まれる危険があります。
- ② 自宅が2階建て以上の場合。上階にいる方が外を移動するよりも安全です。
- ③ 車の中にいる場合。冠水した道路には進入せず、動けなくなった場合は車を置いて高台へ避難しましょう。

動かない時にすべきこと

垂直避難／自宅や頑丈な建物の2階以上に逃げる。

浸水対策／ビニール袋に水を入れた「水のう」を排水口に置き逆流を防ぐ。

情報を集める／テレビ、ラジオ、インターネットなどで情報を収集する。

◆ 河川氾濫や土砂災害を伴う避難情報（レベル3やレベル4）が出ている場合は状況を確認し、安全なルートを確認できる場合は避難します。

消防団による特別巡回広報を実施します

令和6年7月25日からの大雨災害の記憶を風化させず、市民の防災意識のさらなる向上を図るために、消防団車両による特別巡回広報を市内全域で実施します。

日 7月24日(金)～26日(日)

問 危機管理課地域防災係

☎43-8706

防災 コラム

第8回

道路冠水の怖さ―車での無理な移動がまねく危険―

問 危機管理課危機管理係 ☎26-5701

「このくらいの水なら大丈夫だろう」

雨の日に車を運転していて、水たまりを見かけてそう感じたことはありませんか。

冠水した道路には、見た目以上に危険が潜んでいます。水深がわずか10cm程度でも、ハンドルが取られて操作ができなくなったり、エンジンが停止したりすることがあります。一度動けなくなると、車内はあっという間に危険な空間になります。

特に怖いのは、冠水することによって道路と側溝や田んぼ、用水路との境目が見えなくなることです。いつも通っている道でも、冠水するとどこが道路かわからない状態になります。実際に冠水した時に、側溝に車輪が落ちたり、用水路に転落

したりする事故は少なくありません。

また車の内部が浸水すると、電気系統がショートし、パワーウィンドウやドアロックは動かなくなってしまう。さらに水圧によってドアが開けられなくなり、車内に閉じ込められる危険性も高まります。「このくらいなら大丈夫」という判断が、取り返しのつかない結果につながることもあります。

大雨時は、不要不急の外出を控えることが基本です。どうしても移動が必要な場合は、冠水している道路には決して入らず「大丈夫そう」ではなく「やめておこう」を選びましょう。

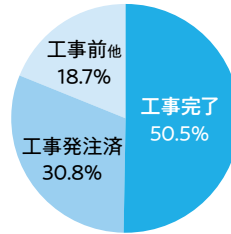


復旧工事の進捗状況 (単位: 件)

令和8年5月15日時点

状況/種別	工事件数	工事完了	工事発注済	工事発注前他
道路	23	19	1	3
橋梁	4	2	0	2
河川	11	9	1	1
農地・農業用施設	46	19	19	8
林業用施設	7	1	2	4
公営住宅	1	1	0	0
水道施設	12	2	9	1
下水道・農業施設	3	1	1	1
合計	107	54	33	20

復旧工事の進捗状況



令和6年7月の大雨被害の復旧状況は、道路や河川などの主要インフラの復旧工事が順調に進んでおり、令和10年度までには全ての工事が完了する予定です。また被災した家屋の公費での解体や被災家屋解体撤去給付

家屋の解体に関する制度

制度概要	対象家屋	申請件数	進捗状況
公費解体制度 (市が被災家屋を解体する制度)	全壊と判定された家屋	41棟 (内訳: 住家12棟、非住家29棟)	令和6年10月より申請の受け付けを開始し、令和7年12月までに全ての対象家屋の解体が完了
被災家屋解体撤去給付金制度 (所有者が被災家屋を解体する場合に100万円を給付する制度)	大規模半壊、中規模半壊、半壊と判定された家屋	39件 (取り下げを除く)	令和6年10月より申請の受け付けを開始し、令和8年4月までに全ての申請者への給付が完了

金の給付はすでに完了しています。一方で、被災された方々への生活支援は現在も継続して行っています。令和6年11月に設置した酒田市被災者生活支援・地域支え合いセンターでは、戸別

被災者生活支援・地域支え合いセンター 訪問などの件数 (単位: 件)

令和8年5月15日時点

区分	訪問	電話	来所	その他	合計
令和6年度※	802	35	8	9	854
令和7年度	1,684	78	7	21	1,790
令和8年4月	115	3	0	0	58
令和8年5月	57	1	0	0	30
合計	2,658	117	15	30	2,820

※令和6年11月～令和7年3月

訪問などにより被災世帯の見守り・相談を行っている他、被災して避難された方と避難先の住民との交流促進や地域情報の提供を目的としたふるさとカフェを定期的に開催し、地域住民どうしのつながりづくりに努めています。本市では、今回の災害対応を検証し、明らかになった課題を整理して地域防災計画に反映することにより、今後想定される大規模災害への備えの強化につなげていきます。

令和6年7月大雨災害からの復旧・復興の状況

ふるさとカフェ等開催実績 (単位: 回、人)

令和8年5月15日時点

	西荒瀬地区		八幡地域		松山地域		市街地・その他		合計	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
令和6年度※	3	16	9	171	3	44	1	6	16	237
令和7年度	2	28	31	555	11	168	2	15	46	766
令和8年4月	1	21	3	36	1	15	0	0	5	72
令和8年5月	1	15	1	13	1	15	0	0	3	43
合計	7	80	44	775	16	242	3	21	70	1,118

※令和6年12月～令和7年3月